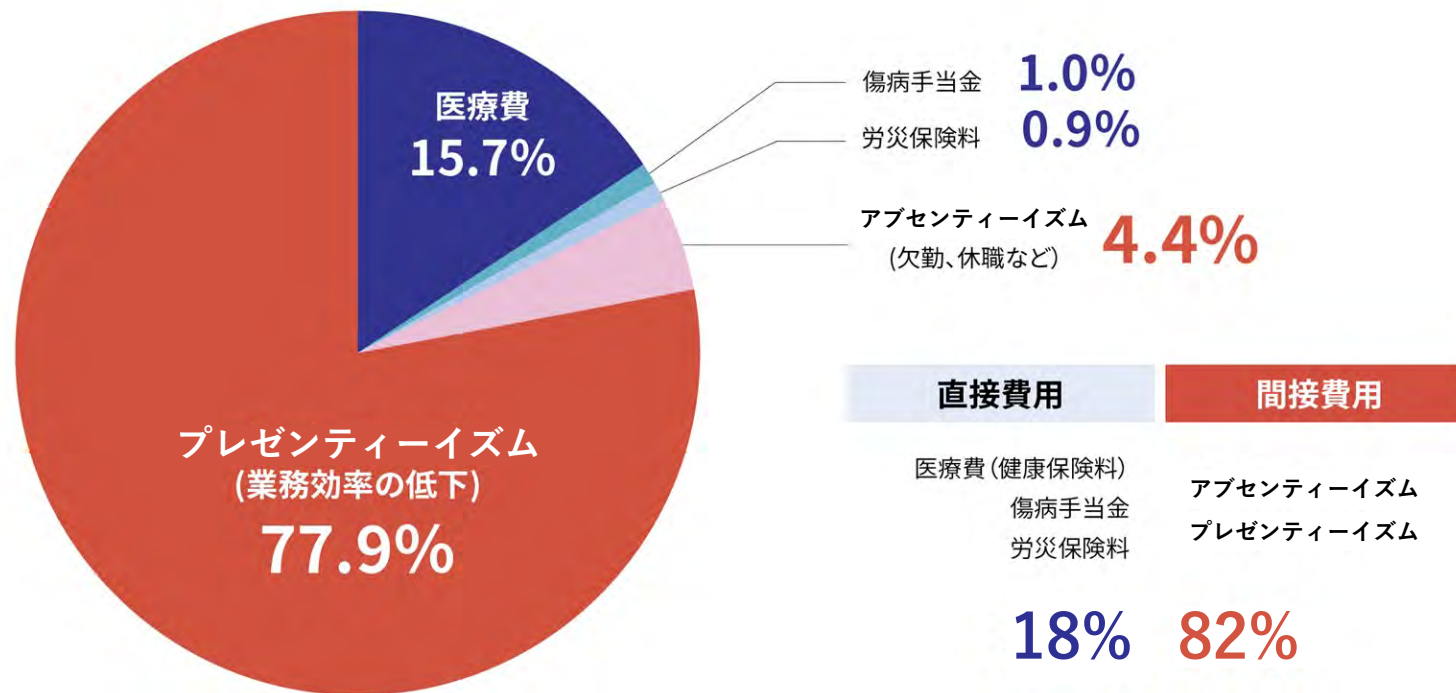


5-1 健康と生産性との関連性分析

従業員の健康に関する企業の負担（健康関連総コスト）



従業員の健康に関して、企業は様々な負担をしています。アブセンティーズムやプレゼンティーズムは従業員の労働生産性低下を通じて間接的に企業のコストとなっており、企業の健康関連総コストの大部分を占めると言われています。



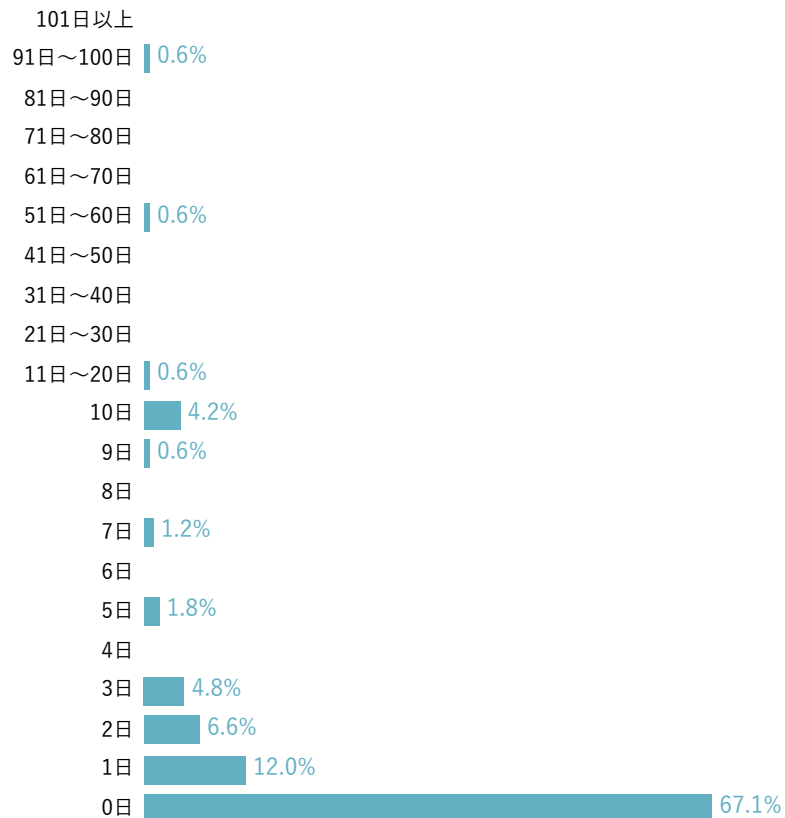
出典：経済産業省（2016）『平成27年度健康寿命延伸産業創出推進事業（ヘルスケアビジネス創出支援等）実践支援調査報告書』
『健康経営評価指標の策定・活用事業』東大WG報告書

5-2 健康と生産性との関連性分析 - アブセンティーズムが与えている影響

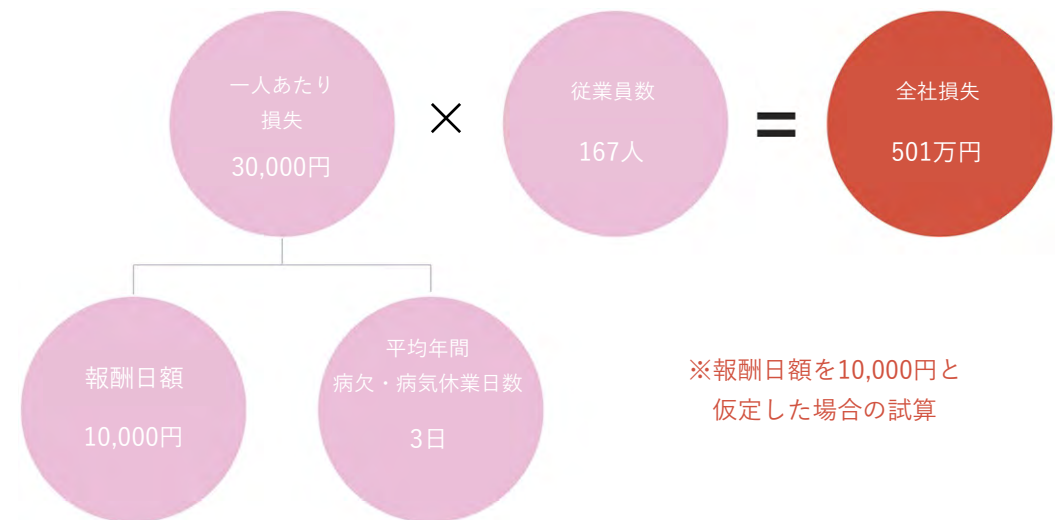


傷病休暇の発生は、企業に対する直接的な損失コストとなります。

体調不良で何日、仕事を休みましたか。



アブセンティーズムコスト



※報酬日額を10,000円と仮定した場合の試算

※アブセンティーズムとは、病欠・病気休業のこと

※アブセンティーズムコスト＝総報酬日額（円）×病欠・病気休業日数

アブセンティーズムコストとは、病欠・病気休業により、本来企業側が提供されるべき労働が提供されなかった分のコストです。

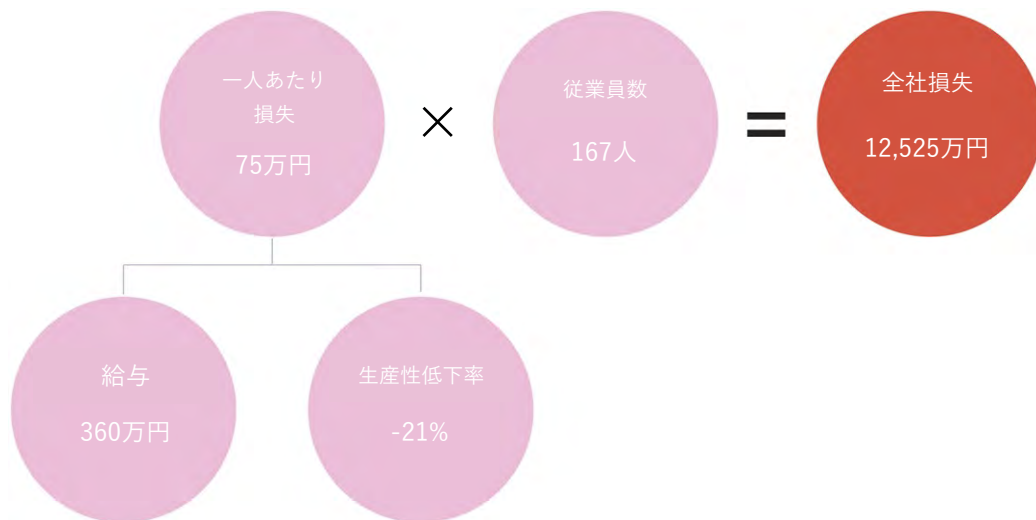
5-3 生産性との関連性分析 - 健康リスク評価と労働生産性との関連

実際に就業している状態での身体やこころに関する不調を特定します。



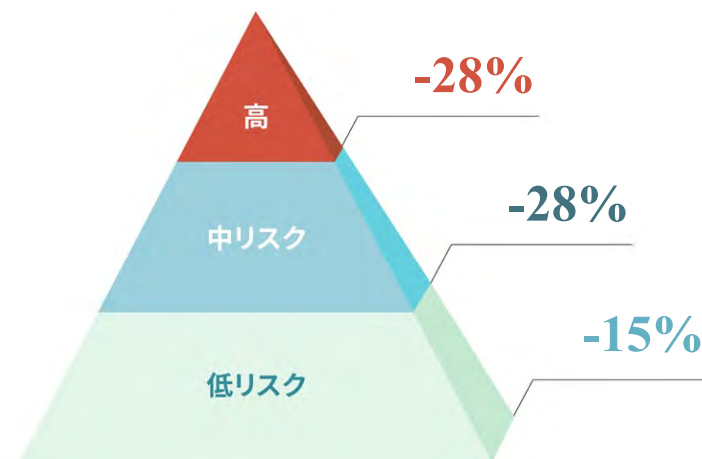
一般的に、高リスク者は低リスク者に比べて、労働生産性低下率により大きな影響を与えます。

※従業員の平均給与を 360万円と仮定した場合の試算



上記、生産性低下率は、
「病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として過去4週間の自身の仕事を評価してください。
(1~100%)」 (東大健康経営研究ユニット作成プレゼンティーイズム1項目版 平成28年2月
「健康経営評価指標の策定・活用事業成果報告書」) に対する回答の全従業員の平均値を示しています。
プレゼンティーイズムコストの方がアブセンティーイズムコストよりも大きくなること
を示唆する複数の先行研究があります。

生産性低下率と健康リスク評価との関連性



従業員の健康リスク評価をし、三階層に分類した場合
(高リスク～低リスク 次ページ参照)、高リスク者は低リスク者よりも
生産性低下率(健康関連コスト)が大きいことを示唆する先行研究があります。

プレゼンティーイズムとは、出勤はしているものの体調が優れず
生産性が低下している状態を言います。

6 プレゼンティーイズムに影響を及ぼす要因

健康関連コストと従業員の健康リスク要因との関係



「健康経営」に関し、従業員の健康リスクと労働生産性の関連についての興味深い研究がなされ始めており、

- ・プレゼンティーイズムは「生活習慣リスク」・「心理的健康リスク」との関連が強いなどの傾向が指摘されています。※1
- ・別の研究では「ワークエンゲージメント」や「職場の一体感」がプレゼンティーイズムの改善につながる可能性が示唆されています。※2

生産性・医療費に関連のある健康リスク（5組織） ※1

	生物学的リスク	生活習慣リスク	心理的リスク
WHO-HPQ プレゼンティーイズム損失	血圧	喫煙	主観的健康観
	血中脂質	アルコール	生活満足度
	肥満	運動習慣	仕事満足度
	血糖値	睡眠休養	ストレス
	既往歴		
医療費	血圧	喫煙	主観的健康観
	血中脂質	アルコール	生活満足度
	肥満	運動習慣	仕事満足度
	血糖値	睡眠休養	ストレス
	既往歴		
アブセンティーイズム (アンケート)	血圧	喫煙	主観的健康観
	血中脂質	アルコール	生活満足度
	肥満	運動習慣	仕事満足度
	血糖値	睡眠休養	ストレス
	既往歴		

※各健康リスク項目において有意差のあった項目に網掛け。
（年齢・性別を調整した偏相関分析結果）

注）プレゼンティーイズムをWHO-HPQで測定した5組織（n=47,348）の結果。アブセンティーイズムはそのうちアンケートで測定した3組織（n=3,429）の結果である。

出典：

※1平成28年2月「健康経営評価指標の策定・活用事業
成果報告書」健康経営評価指標の策定・活用コンソーシアム
東京大学政策ビジョン研究センター

※2日本労働研究雑誌

平成30年6月号「中小企業における労働生産性の損失とその影響要因」
東京大学 古井・村松・井出

7 生産性を阻む要因分析（プレゼンティーイズム）

実際に就業している状態での身体やこころに関する不調を特定します。



各健康リスク項目に該当する従業員比率を見える化すると同時に、リスクピラミッドで高リスク～低リスク従業員の比率も概観します。先行研究によれば表中、網掛けをした項目がプレゼンティーイズムと有意な相関関係があるとされています。※1

健康リスク評価項目と従業員の該当率		
健康リスク	項目	従業員の該当率
生活習慣	喫煙習慣あり	20%
	飲酒習慣あり	21%
	運動習慣なし	65%
	睡眠休養不十分	38%
疾病・病気	不定愁訴あり	25%
メンタルヘルス	主観的健康感不良	12%
	生活満足度低	16%
	仕事満足度低	17%
	ストレス高	28%

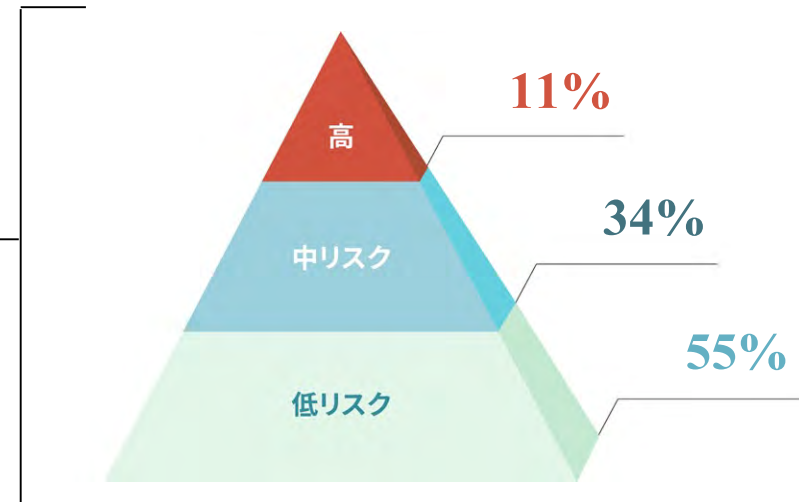
生活習慣、疾病・病気、メンタルヘルスの9項目の該当数から、回答者の健康リスクを評価し、高、中、低の三つのリスク群に分類します。

1. 該当したリスク数を足し算

2. 健康リスクを評価（標準）

リスク数： 0-2	⇒	低リスク
リスク数： 3-4	⇒	中リスク
リスク数： 5-	⇒	高リスク

従業員の健康リスク評価該当数による分類



プレゼンティーイズムは健康リスクの上昇に伴って増加する構造であることが指摘されています。※1

低リスク者の割合が50%以上となることが望ましいとされています。

※1 日本労働研究雑誌

平成30年6月号「中小企業における労働生産性の損失とその影響要因」
東京大学 古井・村松・井出